



ミネソタ州教育資源局  
幼児期の野外学習小冊子「Early Childhood Outdoor Learning」より抜粋

**なぜ？幼児期の野外学習を行うのか？**

**自然をベースとした活動は、  
幼い子どもたちの成長と発達を支えるからです**



すべての子どもは、遊びや探索を通して学びます。ミネソタ州の子供たちは、四季を通じて川や草原、森、景観の良い街、素晴らしい公園システムに触れることができます。これらの環境は、教育者が子どもの発達を支援するために利用できる資源です。ミネソタ州のいくつかのプログラムは、長年にわたってこれらの自然資源を活用し、地域社会で質の高い幼児教育を提供することに成功しています。

幼児教育者やプログラムは、確立されたカリキュラムの中に自然をベースとした学習を取り入れることで、子供たちの健康と発達をサポートすることができます。今、子どもたちは、世界的な大流行、社会的公正、気候の変化などにより、大きなストレスにさらされています。昨年来のストレス要因に加え、さまざまな社会情勢により、子どもたちはストレスにさらされています。

このような課題に対して、教育者は、自然や教育的な資源を利用することで、子どもたちの健康を増進し、回復力を高めることができます。このプロジェクトは、公平性の観点から、ミネソタ州の様々な質の高い幼児教育プログラムにおける研究、現場からの話、事例を共有し、教師が自然を基盤とした学習を実施することを支援します。

## ■はじめに

自然を取り入れたプログラムを始めるにあたって、教師のマインドセットを考慮することは非常に重要です。私たちは、自然をベースとした学習があなたのプログラムにどのようにフィットするかを学び、探求し、熟考する際に、以下のマインドセットを受け入れることをお勧めします。

- 屋内の教室で教えられることは、すべて屋外で教えることができる。 - キャシー・ジェームス

- 天候に恵まれないことはない、ただ服装の選択が悪いだけだ。 - 作者不詳

- 自然はどこにでもある、ただそれを見ることを学べばいいのだ。 - エマ・マリス

- "子供にリスクを負わせれば負わせるほど、子供は自分を大切にすることを学ぶ。" - ロアルド・ダール

- "本当の発見の旅は、新しい風景を求めることではなく、新しい目を持つことにある。" - マルセル・ブルースト

- "そして一日の終わりには、足は汚れ、髪は乱れ、目は輝いているべきだ。" - シャンティ

- "壊れているのは土地だけではない、もっと重要なのは土地と私たちの関係だ。" - ロビン・ウォール・キンメラー『スウィートグラスを編む』。先住民の知恵、科学的知識、そして植物が教えてくれること

- 泥のような自由な遊びの素材は、創造性の世界を可能にする。泥のような自由な遊びの素材は、子どもたちがその背後にある思考者になることを可能にします。私はこれを "考えるおもちゃ" と呼んでいます。想像力を働かせて何かをさせなければ、何もしてくれないおもちゃです。電池もボタンもなく、子どもたちの創造力と想像力だけなのです。 - キシャ・リード

#### ■心に留めておきたいリフレクション・クエスチョン

- あなたの教室やプログラムの生徒について考えてみてください...彼らにできるようになってほしいことは何ですか？どのようなスキルが最も重要ですか？

- 野外学習はそのような成果を得るためにどのような資源となり得るでしょうか。

野外学習はそのような成果を達成するためにどのように役立つでしょうか。研究結果はどうなっていますか？

- 私たちのプログラムの使命は何でしょうか。

- 野外学習や自然の中で過ごすことは、私たちの使命を支え、私たちの目標を達成するためにどのように役立ちますか？あなたが幼児期の教育者になる「理由」は何ですか？自然を基盤とした教育の成果は、あなたの個人的な「なぜ」にどのように合致しますか？あなたの地域の自然界を考えてみてください。子どもたちが探検できる自然空間にはどのようなものがありますか？あなたの地域には、どのような動物や植物がいますか？あなたの地域では、この学習を支援してくれるのは誰ですか？





## Why

### Nature-Based Learning Supports Young Children's Growth and Development

#### 子どもの成長・発達を支える自然体験学習

幼児期は、急速に成長し、学習する重要な時期です。この時期の子どもたちの脳は、他のどの時期よりも急速に発達しています。自分の身体を使って何ができるかを探求し、大切な人との関係を築いていきます。そして、世界の仕組みや自分の居場所を探っています。

屋外での体験は、自然に子どもたちに次のような機会を与えます。

野外での体験は、子どもたちが自分自身を成長させ、周りの世界について実体験的に学ぶ機会を自然に与えてくれます。また、学習者の注意力、ストレスのレベル、自己発見力、学習への興味と楽しみ、身体活動や体力も向上します（Kuo, Barnes & Jordan, 2019）。

#### ■学習への取り組み

子どもたちが学ぶことを好きになれば、学ぶことは自然にできるようになります。自然と触れ合うことで、子どもたちは本能的に学習に取り組み、深い興味を持つようになります。

アリの足跡をたどる、種がいつどのように芽を出すのかを考える、砂の上にお城や絵を描く、屋外を散歩して観察したことについて質問する、などはインパクトのある体験で、子どもが驚きと畏怖をもって学習に取り組む生涯熱心なインベスティガーとなるよう支援することができます。Wojciehowski and Ernst（2018）は、自然を利用したプリスクールのプログラに参加した子どもたちの創造的思考レベルは、自然プリスクールに参加しなかった子どもたちと比較して、流暢性、独創性、想像力の創造的思考の次元で有意に増加することを発見しました。



### ■社会性と情緒の発達

子どもたちの社会性と情緒の発達を支援することは、幼児教育において極めて重要な要素です。死んだリスを見つけたり、傷ついた鳥を助けたり、零下の気温の中で暖を取ったり、雨宿りをしたり、友達と砦を作ったりと、自然との触れ合いの中で、子どもたちは共感、思いやり、回復力、協調性を学びます。このような自然観察・学習を通じて、子どもたちは自分たちを取り巻く世界について学び、自分たちのことを理解するようになります。全般的に、子どもたちは屋外で遊んだり学んだりすると、より向社会的になる傾向があります（Dopko, Capaldi, & Zelenski, 2019）。子どもは自然との有意義なつながりを形成すると、ストレスやトラウマがあるときに、生涯を通じて自然に戻り、安らぎや落ち着き、平和を求めることができます（Chawla, Keena, Pevec & Stanley, 2014）。



### ■言語、リテラシー、コミュニケーション

屋外環境での遊びは、言語、読み書き、コミュニケーションに関連する重要な学習を何度ももたらすことができます。社会的な相互作用を通して、子どもたちは仲間や先生と指示や観察、対話をする。印刷物は標識や地図など環境の至る所にあり、またフィールドガイドや本を通して取り入れることもできます。

遊びの中で、あるいは教師が補助するグループの中で、子どもたちは学んだことを共有し、自然での学習経験について他の人と話し合う機会を得ます。教室でカメ虫を与えたこと、近所の散歩道で花を摘んだこと、特別な木の変化について日記を書いたこと、小グループでアップルソースを作ったことなどについて共有することができます。

自然素材に関連する用語を紹介する前に、子どもたちが屋外で直接体験することが重要である。そうすることで、屋内にいるときよりも言葉を使うようになるのです。自然界が好きになれば、自然素材に名前をつける意味も出てくる。(Wilson, 2007)。このような体験から、子どもたちは身近な木や植物、動物の名前を覚えることができるようになります。

さらに、子どもたちの母国語や植民地化以前の地名、植物、動物の名前など、異なる言語での名前を理解する機会を提供することで、この学習に拍車をかけることができる。

自然や野外での子供たちの体験について書かれた素晴らしい本がたくさんあり、幼児たちの読み書きの能力を伸ばすきっかけとなる（Kupetz & Twist, 2000）。

### ■芸術

鳥の声を聞いて学ぶ、葉の色を観察して季節の移り変わりを知る、自然について日記を書く、丸太の上に棒を立てて音楽を作る、などは屋外で芸術活動を行う際の素晴らしいヒントになります。

また、切り花や風景の写真、教室で飼っているペットなどをアートスペースに置くことで、自然を題材にした多くのアート活動を室内に取り入れることができます。このように美術に親しむことは、子どもたちの観察力を高め、変化や視点をより深く理解することにもつながります（Galvin, 1994）。



### ■社会システム

幼い子どもたちが社会の中で自分の居場所を探しているとき、その経験をロールプレイするのは自然なことです。自然界には、このような学習をサポートする自由な材料があります。例えば、石をお金に換えたり、砂をアイスクリーム屋さんごっここのふりかけにしたり。子どもたちは、大人ができるような探検や活動をしてみたいと思っています。例えば、地域の人々が安全に移動できるように歩道の雪かきをしたり、庭の植え付け、手入れ、収穫に参加したり、リサイクルに参加して自然保護や廃棄物に関する意識と理解を深めるなど、自然は子供たちに実際の仕事を体験させる方法を提供します。

子どもたちの自然界に対する理解は、屋外での直接的かつ魅力的な体験を通じて育まれます（McCain & Vandermaas-Peeler, 2016）。近所を散歩することで、子どもたちは植物や動物、そして地域の人々について学ぶことができます（Nitecki & Chung, 2016）。また、子どもたちは、周囲のコミュニティに直接関わることで、自分たちが住み、遊ぶ場所の自然環境や建築環境の歴史を学ぶことができます。

### ■身体と運動の発達

アウトドアでは、子どもたちが大きな運動能力と細かい運動能力をさらに伸ばすことができる多くの機会があります。大きな運動能力は、子供たちがバランスを取ったり、登ったり、歩いたり、走ったり、集団で体を動かすゲームをすることで養われます。Coe, Flynn, Wolff, Scott and Durham (2014)は、従来の遊び場での子どもの動きと自然の遊び場での動きを比較したところ、子どもの中程度から活発な身体活動レベルを高めると結論付けています。

土の中のミミズを見つけて手で掘り出す、砂の城を作る、裸足で歩く、小さな網を使って魚や昆虫を捕まえて調べるなど、細かい運動能力をサポートすることができます。これらの体験は、子どもたちの興味を引くだけでなく、協調性や言語能力などの発達を助ける機会にもなります。

大きな運動や細かい運動の利点だけでなく、質の高い屋外プレイスペースの中で屋外に出るという単純な行為は、夜間の睡眠時間が長くなったり、保護者からの健康評価が高くなるなど、子どもにとってより健康的なものとなります（Soderstrom et al., 2013）。

## ■数学

数学は私たちの周りにあるもので、特に屋外にいるときはそうです。子どもたちが屋外で積極的に学んでいるとき、岩や木や小道を使って、軽い、重い、近い、遠い、大きい、小さい、無数の形、色のグラデーション、そして原因と結果の反応など、多くの数学的概念に触れているのです。また、室内で砂や水のテーブルを使ったり、松ぼっくりを食べ物として使ったり、葉っぱでお金を稼いだり、歩道で水たまりで水遊びをするなど、自然の素材を使って基礎となる重要な経験をすることができます。この重要な数学的学習が、子どもたちに大きな影響を与えるのです。

この重要な数学的学習は、子供たちが「いくつ」「どのくらい」「どのくらいの深さ」を学ぶための直接的な体験となります。

幼児と一緒に屋外で地図を使い、さらには自分たちの地図を作らせることは、空間認識や形の識別といった重要な数学的スキルの発達につながります。（Stea, Kerkman, Pinon, Middlebrook & Rice, 2004）。

## ■科学的思考

自然遊びを考えると、科学は自然にフィットします。天気、生物学、物理学、化学など、外では毎日たくさんの科学的な概念が繰り広げられています。子どもたちが「どうして」「どうして」と質問するとき、それは科学的なプロセスを始めているのです。特に、教師が自由な発想で質問を投げかけることで、屋外には子どもたちの批判的思考（クリティカル・シンキング：物事や情報を無批判に受け入れるのではなく、多様な角度から検討し、論理的・客観的に理解すること）を高める大きな機会があります（Mankiw, Strasser & Bresson, 2018）。

屋外では、子どもたちは特別な木や庭にある草が与える影響を見たり、鳥の移動について話したり、蝶のライフサイクルについて話したりすることができます。また、土と水を混ぜたり、種を植えたり、棒と糸で簡単な機械を作ったりと、科学的な実験に挑戦する機会もあります。





#### ■子どもの学習と成長を記録し評価する

子どもたちの学習やスキルの習得を記録し評価することは、成長と発達を追跡する手段となります。子どもの学習と発達を評価するために、多くの文書化ツールが利用できる。ECIPsに沿った評価として、Parent Awareを通した承認済みのアセスメントがあります。観察は本物の観察を通して行う必要があるため、すべての観察は屋外や自然を利用した学習を通して行うことができます。

2020-2021年度、ミネソタ州の多くの幼児プログラムは、パンデミック時にその方が安全であることが証明されたため、クラスを完全に屋外に移しました。そのため、屋外にいるときに評価ツールを使用する必要がありました。多くのプログラムは、すべての基準を満たすことがいかに簡単であるかということに、嬉しい驚きを覚えました。実際、例年よりも生徒の成長が見られたというプログラムもありました。

「1年のうちには、運動能力を高めるような特定の活動を行うことが難しい時期もありました。しかし、私たちはこれまで以上に意図的に時間を使い、活動を行うことを選びました。ハイキングでは、砂浜に棒を立てて絵を書いたり、ピンセットやトングを持参して自然の素材を集めるなど、積極的に活動しました。年末にTSGoldという評価ツールにチェックポイントを入力したところ、すべての分野で例年になく大きな成長が見られたので、とても嬉しく思いました。特に伸びていたのは、社会的問題解決、大きな運動、あらゆる面での言語発達、認知的問題解決でした。今年のデータから、たとえパンデミックのために必要性がなくても、来年度もほぼ完全なアウトドア・プログラムを選択することになるでしょう。」

タマラック・ネイチャー・プリスクール、ジェニー・ハンロン、MEd]

「新しい屋外モデルへの準備として、私たちのチームは、子どもたちが寒くてすぐに屋内に入りたがる場合にどのように対処するかについて話し合いました。帰国子女は屋内教室を覚えているだろうし、年少の3歳児は寒さや雨、悪天候のときに屋内に行きたがるかもしれないと考えたのです。しかし、写真やメモを見ながら1年間を振り返ってみると、子どもたちはモデルチェンジの際に想定していたよりもはるかにたくましくなっていることがわかりました。

2020-2021年の冬と2019-2020年の冬の子どもたちの言葉を比較すると、ずっと外にいたにもかかわらず、雨の日や寒い日に外で過ごしたというコメントは、最近の冬の方がよりポジティブ

であることがわかりました。また、安全のために屋内に移動する必要がある場合、子どもたちを屋内に入れるにはより説得力が必要であることがわかりました。例えば、11月下旬に雷が鳴り、天候が悪化したため、安全のために屋内に移動したことがあります。そのとき、年長の男の子たちが「雨の中で遊びたい」とドアの前で泣いていました。前年の秋、その子どもたちは「雨が降りそうだから、中に入りたい」と言っていたのです。

2月に氷点下が7日間も続いたとき、1時間以上外で遊んだ後、ウォームアップのために中に入るのを拒んだ子どもたちがいました。子どもたちは遊んでいて体が温まっており、なぜ先生たちがウォーミングアップのために遊びを中断するのか理解できないのです。今年の春、雨が降り続く寒い日に、屋内でおやつを食べながら雨宿りをしていました。

焚き火台とスナックのある場所を通り過ぎると、一人の子どもが言いました。「でも、どうしていつもと同じように外で食べられないの？」と言い、他のメンバーもそれに同意していました。

いつも屋外で過ごすことで、子どもたちの回復力は驚くほど成長しました。

- ダッジネイチャープリスクール、エイプリル・グレイブロック

#### ■教師たちの視点

McClintic and Petty (2015) による文献レビューでは、教師が屋外の学習空間を屋内の学習空間と同様に重要視すると、屋外でより質の高い保育や体験を子どもたちに提供できることが明らかにされました。以下は、子どもたちとの日々の体験に自然体験学習を取り入れる幼児期の教師たちが語った知恵の言葉である。

- プログラムに自然を取り入れることで、どのようなことを学びましたか？

・自然は子どもたちをととても幸せにし、彼らの言葉は外で開花します。- ケイさん

・時間が経つのは早いし、子どもたちは自然や外にいることに興味を持つようになりました。

私たちは皆、昆虫が大好きになりました。子どもたちが遊び（学び）を楽しみ、自分たちが有意義だと思うことに取り組んでいるのであれば、あまり整然とした一日を過ごす必要はないのです。- デアンナ

・自然の中では、子どもたちはぶつかり合うことなく、一緒に遊ぶことができます。季節ごとの屋外での体験を楽しみにしていますし、屋内に持ち込んでさらに勉強する機会も喜んでいます。- アマンダ

・子どもたちはよりクリエイティブに遊べるようになりました。私の屋外の教室は、視覚的に穏やかで魅力的です。- クリス

・自然は子どもたちにさまざまな効果をもたらします。教える、注意を引く、平和にする、不思議に思う、発見する、癒すなど。- モナ

・自然は私のガイドであり、先生です。周りの自然界を信頼していると、カリキュラムも自然に用意されていきます。子どもたちは、屋外と屋内では緊張感が違います。私が子どもたちを引っ張っていくのではなく、子どもたちは自然に好奇心を持つようになるのです。- サラ

-自然をベースとした学習を通して、先生としてどのようなメリットを感じましたか？

・子どもたちと一緒に自然について学ぶことができます。外に出ることで、より健康になったと感じています。- ケイ

・私のストレスはとてもの少なくなりました。持ち帰りのアクティビティや教師主導のプロジェクトに追われることはありません。子どもたちが私をリードしてくれ、環境を先生にしてくれることで、一日の中にたくさんの楽しみが戻ってきました。それでも、他の先生と同じように計画を立てなければなりませんが、より有機的で、季節や場所、そして子どもたちの興味に基づいたものになります。- ディアナ

・ストレスが減り、子どもたちと一緒に学ぶことが楽しくなりました。- アマンダ

・子どもたちの心をとらえ、日々新しい発見を与えてくれることを知りました。

毎日何か新しいことを学び、発見することができます。外では退屈することはないのです。- モナ

・レスンプランに合わせるストレスが少なく、子どもたち一人ひとりのニーズを満たすことができます。集団の興味やニーズ、すべての学習スタイルに対応することができます。

野外で教えることで気分が高揚し、野外にいることに感謝し、マインドフルネスになります。- サラ

-これから自然を取り入れる先生方へのアドバイスをお願いします。

・シンプルであることが一番です。天候や子どもたちのアイデアによって、柔軟に対応できるように準備しておくことです。- メアリー

・子どもたちがもっといいアイデアを見つけることがよくあるので、私たちはいつも計画に固執するわけではありません。子どもたちはもっといいアイデアを見つけることができるからです。- ジェス

・教室でやっていることは、すべて外でできます。

木の幹に紙を貼り、ロープで巻きつければ、絵を描くのに最適です。自然の中に小道があればリボンなどで目印をつけると、子どもたちはどこで止まってみんなを待つのがわかります。

自分のペースで進められます。- ケイ

・屋外学習に関する専門家養成研修に参加し、屋外学習に関する本で情報を探すことです。素晴らしい資料がありますよ。私はネイチャーベースの認定クラスを受講しましたが、とても役に立ちました。- ディアナ



- ・温度については、厳格な規則を作らないようにしましょう。

風や日差し、季節によってさまざまです。 - アマンダ

- ・屋外を散策するときは、毛布やリュックサックを置くなどして、その場所に滞在する時間を明確にしましょう。そうすることで、子どもたちはリラックスしてその場に身を置くことができます。

子どもたちはその空間にリラックスして溶け込めるし、置いていかれることもない。

そうすることで、子どもたちは「もっと深く掘り下げる」、あるいは「ドラマチックな遊びを始める」ことができるのです。急がせないでね。 - アマンダ

- ・良い雨具や雪駄に投資してください。快適に過ごせれば、みんなが長く遊べるようになりますよ。 - アマンダ

- ・プラスチック製の動物やマグナタイルなど、慣れ親しんだおもちゃを一緒に持っていきましょう。そうすれば、最初は新しい環境に慣れず、自然の遊具に慣れていない人でも、安心して遊べます。 - アマンダ

- ・シンプルに始めましょう。どんな環境でも、自然を取り入れることができるんです。 - キャシー

- ・子どもたちに質問させ、その答えを発見させるために、自然を先生にしてみましょう。あなたは脇役のガイドです。 - モナ

- ・自然はいたるところにあります。小さなポケットの中や庭、近所の歩道にもあります。自分のスペースについて考え、それを利用するのです。 - サラ



#### ■保護者の視点

子供の頃の野外での体験が印象に残っているため、多くの親が子供に野外での機会を求めています(Urbaniak, 2013)。また、アメリカでは多くの子供たちが毎週30分以下しか屋外で過ごしていないことを知り、自分の子供たちのためにこの状況を打破したいと考え、屋外学習を重視したプログラムを選ぶ人もいます(Hofferth, 2009, Hofferth & Sandberg, 2001)。

このガイドブックには、幼児期に野外活動や自然体験学習プログラムに参加させた、あるいは意図的に自然体験活動をさせた保護者の声が随所に紹介されています。

「自然の中で過ごす時間は、私にとって心身ともに健康であり、周りの生物とのつながりを感じることができる大切な時間でした。そのため、双子が生まれたときから、毎日必ず外で過ごすようにしていました。雪の中で寝転んで雪を見たり、秋には葉っぱをガラガラとして揺らしたり、オオカバマダラが出てくるのを見たりと、さまざまです。私が学んだことのひとつは、私たち全員が外にいと落ち着くということです。ある友人は、「リセットボタンを押すために幼児を外に連れて行く」と言いましたが、専業主婦の親として、私は毎日そのリセットが必要だったのです。

ミネアポリスに住んでいると、アウトドアで知り合う人がたくさんいます。双子を持つ親たちが、2人の赤ちゃんを同時に抱っこして一緒にハイキングできるようになるのを手伝ったり。幸運なことに、フリーフォレストスクールとつながり、自宅から歩いて行けるところにサイトを立ち上げることができました。ミネソタ生まれの近所のお母さんをワース湖に連れて行っただけですが、凍った湖の上を歩くのは初めてだったそうです。子どもたちは、氷の上を長靴で滑ることに喜びを感じていました。自然の中で他の子供たちや大人たちと触れ合うことで、子供たちも私も、どんな天候でも外に出て、毎週周囲の環境の変化を見るという習慣を身につけ、同時に社会的な機会を持つことができました。

私が母親になって間もない頃、自然の中で過ごした大切なことのひとつは、毎日が楽ではないかもしれないけれど、全体としてはとても有意義なものだったということです。庭に出ていたとき、雨が降ってきたことがありました。子どもたちは家の中に逃げ込む代わりに、近くの低木の棚の下に身を隠しました。これは、生後15ヶ月の子どもたちが本来持っている能力であり、私たち年配の人間が忘れてしまっているものだと思います。子どもたちは、屋外で一緒に過ごす時間の中で、私にたくさんのことを教えてくれました。3歳、4歳になるまで、子供たちがどれだけ多くのことを学んできたか、私は知らなかったと思います。観察したことを言葉にできるようになると、この夏最初のオオカバマダラの卵を見つけたり、ブドウの蔓を食べたり、イラクサに触れないようにしたりと、素早く行動するようになったのです。息子は今、6歳にして昆虫学に手を出し、創造的な発明家になっています。娘は私よりも野鳥観察が上手で、1時間以上じっと動物を観察していることができます。このような幼少期の経験は、私たちに楽しい思い出を与えてくれますが、それ以上に、子どもたちが将来、順応性や探究心、思いやりのある人間になるために必要なスキルを与えてくれるものだと私は思っています。- アリソン、ミネアポリス

「娘をネイチャー・プリスクールに入園させたとき、泥んこ好きで好奇心旺盛なこの子にはぴったりだと思いました。娘が野外活動を楽しみ、自然を深く理解するようになればと願って

いました。しかし、このプリスクールが娘の社会性、感情、身体、知性の発達を促すとは思ってもみなかったのです。私たち家族は、この2年間タマラック・ネイチャー・プリスクールでの自然を基盤とした教育から、数え切れないほどの、そして計り知れないほどの恩恵を受けています。

私の娘は昔からとても内気で、新しい場所や社会的な状況で温まるのが遅かった。この2年間で、娘の内気さはかなり薄れ、今では先生や仲間、家族ともっと気軽に接することができるようになりました。おそらく、自然を楽しみ、学ぶ意欲を持つことで、他人との交流に自信を持ち、さらにはリーダーシップを発揮できるようになったのでしょう。本来なら社会性が伸びる年頃ですが、その度合いに屋外学習環境が役立ったのだと思います。

特に今年、彼女の情緒的な発達は本当に目覚ましいものがあります。世界的な大流行があった今年、彼女はストレスや緊張の表情を見せることはなかった。マスクをして、何枚も服を着て、雪や雨や太陽の下で2時間半も過ごすことになっても、彼女はいつも学校に行くことを熱望し、楽しみにしていたのです。このことは、屋外に出ることの利点が、彼女にとってそれ以上の価値があったことを物語っています。彼女は、おそらく人生で最もストレスの多い年に、ほとんどストレスを感じなかったようです。

娘の好奇心旺盛な性格は、自然体験型保育の中で十分に生かされました。今、娘が自然と触れ合うと、質問や仮説、実験をして歯車が回るのが目に見えるようです。今では動物について限らない質問をし、雲の形を当てるのが大好きで、自然の景色、音、手触り、香りを限りなく体験したがりです。彼女のネイチャー・ジャーナルは、ネイチャー・プリスクールが彼女の人生にもたらした豊かさと創造性を垣間見せてくれるでしょう。

最後に、私が望んでいたように、野外教育は彼女の地球に対する愛と感謝をかけがえのないものとして育ててくれました。子どもたちは将来の地球の番人ですから、若いうちに地球への愛情を育むことは非常に重要です。彼女の環境保護に対する情熱は、何も言わずに庭のゴミを拾い、適切にリサイクルし、ほとんどすべての容器を再利用していることから明らかです。アウトドアで過ごした時間が、彼女を自信に満ち溢れ、平和で、強く、好奇心旺盛な環境保護者に育ててくれたことは間違いありません。- ブリアナ セントポール -

「私たちの娘たちは、この2年間、自然をベースとしたプリスクール・プログラムで成功を収めてきました。毎日何時間も外にいて、遊びや自然を通して探索し、学んでいます。感情のコントロール、社会とのつながり、読書、算数、問題解決、睡眠、身体の健康、そして自立において、私たちの期待をはるかに上回る効果がありました。私の娘（4歳）が、海王星や他の惑星について教えてくれたり、矮小惑星について教えてくれたりしたことは、おそらく私が思い出す中で最もかわいい話のひとつでしょう。鳥の種類を私に教え、ミミズを狩り、何十匹もの昆虫を"ペット"として飼っているのです。信じられないかもしれませんが、このプログラムに参加する前は、二人とも土に触ることさえしませんでしたし、私も触ろうとしました。二人とも、学業はとても順調です。先生方は、彼女たちが今いる場所で、遊びと探求を通して育み、二人



とも大きく成長しました。私たちの経験は、子供たちをスクリーンから解放し、外に連れ出すという運動を100%支持しています。- カイザ、プライヤーレイク 」

「私の3人の子供たちがそれぞれTamarack Nature Preschool [TNC]のECFE [Early Childhood Family Education]とプリスクールのクラスに参加する前は、私は我が家を冒険好きなアウトドア派とは言えなかったと思います。息子がECFEに参加し始めた頃、恥ずかしながら私はちゃんとした防寒靴さえ持っていませんでした。TNCの非公式な信条である「悪天候なんてない、悪いのは服装だけ」は、私たち家族の人生を変えるほどの啓示でした タマラックでの生活で、私たちは四季を通じて屋外で過ごすことを学び、文字通り我が家の文化を変えました。自然の中で過ごす時間は、私たち全員を落ち着かせる効果があり、特にCOVIDの制限があったこの1年間は、救いの手となったのです。カエルを捕まえたり、自然の中でアルファベットの形を探したり、足を汚したり、ハイキングに出かけたり、一緒に充実した時間を過ごしています。タマラックの看板にあるように、「凹凸のある地面は脳にとってシンフォニーである」というのは、確かにその通りだと実感しています。タマラックで学んだ先生方、自然の中で過ごした時間、そしてこれからの人生に活かせるすべての教訓に、心から感謝しています。- クリステン、ローズビル 」

## ～もりのね～より

**森には、子どもたちに必要なものが過不足なくそろっています。  
そして、瀬戸には、身近に、豊かな自然があふれています。**

**大らかで優しい自然の力を借りて、大人も子どもも幸せに生きる力を育んでいきましょう！**